

誰もが「幸」に暮らせるそんな世の中を

ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/>
メール
info@hyoufuku.main.jp

皆さんの漢字



黒崎氏の「笑」と
大矢施設長の「輝」

希望を失わず、幸福の追求に心を合わせた

社会福祉法人

ひょうご聴覚言語障害者福祉事業協会

理事長 大矢 暹

みなさま新年おめでとうございます。
皆さまの温かく力強いご支援に感謝申し上げます。

お蔭様で今年はいくろうの郷の開所10周年を迎えました。

物心ともにご支援をいただいております関係団体と大勢の方々深く感謝申し上げます。とりわけ相次ぐ台風来襲による被災などの修復・改修工事の費用につきましては、ご無理なお願いにも関わらず、「ひょうご聴覚ネット」をはじめ兵庫や全国の方々から多大なご支援をいただきましたこと年頭に当たりまして重ねてお礼申し上げます。

さて、今年の願いを託す漢字が「幸」でした。障害者福祉年金を全額取り上げのような負担制度や、介護



報酬の切り下げが予定されている中でも、希望を失わず、幸福の追求に心を合わせたという入居者の意思表示でした。義務教育の未修学の入居者が7割にも

のぼり、憲法13条の幸福追求権の言葉は教わるのがなくとも、いや、だからこそ「幸」への意思が強いのでしょうか。

誰もが「幸」に暮らせるそんな世の中を展望する時、昨年、公益社団法人ひょうご聴覚障害者協会などが実施されました「兵庫県における聴覚障害者の生活実態とニーズ調査報告書」が提起しております「身近なところにコミュニケーションに配慮のある福祉事業所・聴覚障害者センター設置」が急がれます。

その一つが、就労支援事業所（作業所）の神戸ろうあハウスの移転拡充です。相談支援・就労支援・デイサービス・介護予防をはじめ、地域連帯を大切に、災害時には福祉避難所にもなり、聴覚障害を持つ子どもたちも、みなさんと共に夢を育

て合う場にしたものです。

ふくろうの郷や中川原ふれあいセンター等の諸事業所においても、中途失聴・難聴者への支援事業の強化や、ふれあい農園（仮称）の開設などをめざします。

障害者権利条約を暮らしの中に生かす事業の推進に、行政・議会をはじめ、皆様の一層のご指導をお願いし新年のご挨拶といたします。

「幸せ」に「笑って」暮らせる一年に

今年を占う漢字一字

淡路ふくろうの郷では毎年恒例となりつつある、「2015年を占う！漢字」を募集しました。施設見学者やふくろうにお越しになる方、職員に募集した漢字を入居者を選んでいただきました。

一番多かったのは「幸」。ついで多かったのが「笑」。2015年は皆さんとともに「幸せ」に「笑って」暮らせる一年にしたいものです。



▲松栄寺の笹津住職による「幸」

こうやって決まった漢字を12月22日、餅つきやしめ縄づくりの行事が終わったあと、松栄寺の笹津住職にお越しいただき、書をしたためていただきました。その際、「『幸』という漢字は『土』という字の下にゴボウが根を張るように長く一本伸びています。皆さんの幸せも土の下のように見えないところのおかげで成り立っています。そういった方々に感謝をしましょう」とのお言葉をいただきました。

その後、淡路ふくろうの郷地域交流会の北岡様、老人会の山口様、評議員の平野様、入居者自治会の黒崎様と大矢施設長がそれぞれの思いを込めて力強く書いてくださいました。

(事務長 橋詰恭子)

年男&年女紹介



高橋雅子様(95歳)
(大正8年6月21日生)

ふくろうでゆっくり過ごして
いきたいです。皆さんとお話し
したり、家族が遊びに来てくれ
るのが嬉しいです。
時々お出かけもしたいです。

昔は大阪で看護婦をされていた
日外さん。いまは、皆と一緒に
食事をしたりと穏やかに過ごし
ています。



日外さく様(95歳)
(大正8年11月13日生)

今年は生まれ故郷の朝来
にまた帰りたいです!!

今回、黒一点、ロングショート
の古家さん。今でも、おしゃれ
にこだわる紳士な方です。



畠ゆい子様(95歳)
(大正8年6月26日生)

美味しい物を食べ
てこれからも元
気で歩けるよう
に！
妹と姪も元気に
しているか気にな
ります。



兵頭美恵子様(83歳)
(昭和6年7月13日生)



古家拓哉様(83歳)
(昭和6年7月22日生)

12月22日、大安吉日に地
域の老人会や、交流委員会な
どのご協力のもと、餅つきと
しめ縄作りを行いました。和
歌山から入居された、吉見久
さんは穏やかな方ですが、地
域の方のジェスチャーに誘
われて、やる気満々で杵を持
ち懸命にお餅をつかれました。
つきたてのお餅は、女性
を中心に約10名の入居者
が、調理職員・ボランティア
の方と一緒に丸めて下さい
ました。

▶張り切ってお餅をつく吉見久さん
どこから力が湧き出たのでしょうか。



最後に2015年を占う漢字で
締めくくりました。まず松栄
寺ご住職笹津様が「幸」を書
き、北岡さんが「祥」、平野
さんが「健」、山口さんが
「命」、最後に黒崎さんが
「笑」を書いて締めました。
2015年が良い年になるように
みんなで願いました。
(生活支援係：田中愛)



▲しめ縄作りに没頭する花房さん

餅つき&しめ縄作り

つも居室に籠もられている
花房様もこの日は一生懸命
にしめ縄作りに没頭されて
いました。

ふくろうレストラン開店！

クリスマスランチに舌鼓!!

12月13日ふくろうの郷クリスマス会を行いました。

昨年のコース料理とは違い、ワンプレートでの料理を振舞いました。今年は、「ソフト食の方も普通食の方と同じ食事が食べられるように。」と言語聴覚士、管理栄養士と相談し「ハンバーグ」に決まりました。お食事を待っている間に、ゲーム(じゃんけん大会)も行いました。みなさん負けた時の悔しがつた表情や勝った時のうれしそうな表情など普段では見られない表情が見受けられました。今年は3名のボランティアにご協力いただき、また、地域交流会の方も一緒に料理を楽しみました。入居者からは、「おいしい!」という言葉と共に、「鳥のモモ肉が食べたい」という要望も聞かれました。みなさんのお蔭で、無事成功させることが出来、また準備から当日、片付け等ご協力ありがとうございました。今回の反省点と良かった点を活かして来年も素敵なクリスマス会にしたいです

(生活援助係 泉・和田)



おしゃれなハンバーグランチ



職員と一緒にメリークリスマス!!



じゃんけんボンゲーム

一年越しのルミナリエ鑑賞

12月10日に一年越しでようやくルミナリエを鑑賞してきました。去年は生憎の雨天の為中止となりました。吉見久様、吉見輝子様、谷妙子様、土居文子様、竹邊正晴様、中村實様、山下輝興様の7名と職員6名、山下様のご家族さまもルミナリエ会場近くで待ち合わせして一緒にルミナリエの下を歩きました。思いのほか、寒くなく、今回のライトは白熱球を使用していたので温かく感じられました。「初めてルミナリエを見られてすごきかったです。」と。自分の携帯電話で写真を撮っていた吉見輝子様。寿司とルミナリエを楽しんでいた中村様。観賞の後、屋台を巡り、B級グルメを堪能し、ふくろうに帰ってきました。夜遅くまでの外出となりましたが、皆さん元気に帰ってこられ、感想を皆さんにお話しされていました。綺麗な光の芸術を楽しむ一方で、阪神淡路大震災から20年目を迎え、多くの亡くなられた方たちの鎮魂の意を込めてお祈りしました。

(生活援助員 足立)

衆議院総選挙不在者投票

突然ともいえる解散で、2012年12月以来2年ぶりとなる衆議院議員選挙が行われることとなりました。それにもない淡路ふくろうの郷では投票を希望する入居者を対象に不在者投票を行いました。

投票用紙の前に、「誰がええかなあ」

「どの党にしよか」という入居者さんの顔は真剣そのもの。皆さんの思いが通じた結果となったのでしようか。

(事務長 橋詰)



いい世の中にするために清き1票を



ルミナリエをバックに記念撮影!!



←仲良く唐揚げを分け合う吉見夫婦。久しぶりの遠出を楽しみました

淡路聴覚障害者 センター便り

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

仲良し親子 お父さんとの別れ

藤木敏司さん(52歳)はお父さんと二人暮らしでしたが昨年4月にお父さんが急逝されました。お父さんとは、一緒に田んぼで米を作ったり、自分とお父さんの誕生日にはケーキを買って祝いして仲良かった親子。いつも明るい藤木さんもお父さんの話をするときは寂しげでした。

社会生活の壁

藤木さんは、難聴で小さいころから聞こえにくいこともあったのですが、先生の言うことをよく聞き、叱られたこともなかったそうです。聞こえないことでいじめにあったこともありましたが、持ち前の明るい性格で乗り越えてきました。しかし社会にでて、いくつかの会社を

今、1番の楽しみはおのころの家

転々として何度も壁にぶちあたりました。会社に勤めているころは、筆談ではなく「口頭による指示を取り違えては怒られたり、汗でぬれて補聴器が落ちてしまい探して怒られたり」と話され、「今考えてみると、大事なことは筆記で指示してくれると指示通り仕事もできて怒られることもなかったのに」と当時を振り返られます。



▲おのころの家でピザ窯用の薪割をする藤木さん。

おのころの家に行ってみませんか?

以前より、センターとは年金や福祉制度の申請・家庭訪問・社会生活教室などの行事参加と深く関わりがあった藤木さん。

お父さんが亡くなり、家一人で。近所との付き合いも少なく、毎日どのように過ごしているのか気になっていました。そこで、おのころの家が畑仕事を始めたこともあって、センターが勧めたところ、

「週に1回くらいなら」と通所を始めました。

おのころの家では農業の経験を発揮

おのころの家では得意の農業の経験を活かして畑仕事や、ピザ窯用の薪割、植木の剪定や、おたがいさま中川原からの依頼で草刈りなど多彩な仕事をされています。

8月に通所を始めたところは週に1回でしたが現在は週2回。そして今年からは週3回に増やすとの意欲ぶりです。

「今一番楽しいことは何？」と聞くと「おのころの家に行くこと」と答えられた藤木さん。手話も少しづつ覚え、朝なかまに会うと一人一人「おはようございます」と手話で挨拶されています。今、藤木さんにとっておのころの家が一番大切な場所となりました。(楠本)



▲左が藤木さん。仲良し男性陣。友達もおり、良きライバル。

聞こえについての勉強会開催 12月9日(火)

〜南あわじ市社協ミニセミナー〜



STの齋藤奈奈さんの話を聞かれる参加者の皆さん

「聞こえの大事さ」を知ってもらおうと南あわじ市社協が実施しているミニセミナーを訪問し「聞こえについての勉強会」を開き、11名の方が参加されました。言語聴覚士より「耳の役割や耳の仕組みについて」などお話をしたあと、今の聴力を知りたいという方もおられ、聴力検査も行いました。高齢になるにつれ耳についての不安や悩みを抱えている方も多いことが分かりました。今後も島内各地でこのような取組を広げていくこともセンターの役割であると改めて感じました。

県難聴者等の集い

洲本市健康福祉館 12月6日(土)

県立聴覚障害者情報センターと県難聴者福祉協会の共催による県難聴者等の集いが洲本市で開催され、島内外の難聴者28名が集いました。福祉制度については淡路市の福祉課 鯛泰子氏より、また大阪のNPO法人まちづくり福祉推進ネット相談員の中川良雄氏より補聴器の使い方など、詳しい説明があり質問が飛び交いました。

参加者の一人小嶋朝子さんは「皆さん『聞こえないことは苦しい』と感じている。私も突然の失聴後しばらく失意の日々をおくり閉じこもっていたが、同業者や要約筆記者と出会って励みになり、交流が深まるにつれ前向きになれた。今日は、市の福祉課の鯛さんから制度の話など勉強になった。また、このような機会をつくって参加したい」と意欲を述べられました。集いの開催には当センターも協力しました。

「食」と「農」をキーワードにした施設「兵庫楽農生活センター」へ ～おのころ屋日帰りお出かけ行事～



▲14ヘクタール（甲子園球場が3つはいる広さ）もの敷地に田畑と施設などがありました

かねてより利用者のみなさんから「日帰りどこかへ行きたい」との希望がありました。秋は行事が多くなかなか実施する事が出来ませんでした。

12月に入り忙しさも一段落したので12月15日(月)に神戸市西区神出町にある「兵庫楽農生活センター」に出かけました。

センター内には農産物直売所やパン工房など沢山の施設があり、農産物直売所では野菜を購入される利用者さんもいました。



地元の野菜や手芸品が
とろせまじと並ぶ館内

〒656-0002
洲本市中川原町中川原 222-2
中川原ふれあいセンター内
TEL・FAX 0799-28-0995

〒656-0025
洲本市本町7丁目 3-41
営業日時：月～金 9:00～18:00
TEL・FAX 0799-22-6133



▲兵庫産の新米だけでなく米粉も販売

パン工房ではパン作り・ピザ作りなどの体験イベントができるのですが、私達が行った日は残念ながらお休みでした。

昼食はセンター内にある楽農レストラン「育みの里かんでかんで」で食べました。レストランはバイキング形式になっており、地元で採れた新鮮野菜を使ったメニューを中心に50種類以上の料理が並んでいました。お米も「ひょうご安心ブランド米」を使用していました。

みなさん「おいしい、おいしい」とおかわりをされていました。

今後、おのころの家の農作業に向けて参考にして行きたいです。
(おのころ屋・山田裕美)

イオン洲本店様からのクリスマスプレゼント



毎年イオン洲本店様より福祉基金で交流を通じてクリスマスプレゼントをいただいておりますが、12月18日今回も店次長様をはじめ2名の方がお越しくださ



▲今年の干支、「未」の色紙飾りを作りました

おのころの家12月の作品

大事に使わせていただきます。
(おのころの家・藤本美保子)

り、一昨年イオン様よりいただいた餅つき機で一緒にもち作りをした後、風船バレーをして交流を楽しみました。

今回のプレゼントは土鍋、収納ケース、などたくさんいただきました。

昨年11月27日に兵庫県加東市議会で「加東市手話言語条例」、12月19日に兵庫県篠山市議会で「篠山市みんなの手話言語条例」案が全会一致で可決されました。2015年4月1日より施行します。

淡路では、昨年12月23日、淡路における「手話言語条例」の制定を求める要望書提出に向けて作業委員会が設

けられました。

淡路の自治体(3市)に対する条例の目的、何を実現したいのか、「暮らしの不便や苦悩が減少・解消、人としての尊厳の回復や保持、自己否定の改善」等を話し合われました。各市との相談が始まります。一緒に取り組んでまいります。

(所長・橋詰一則)

「手話言語条例」制定を求める運動

続々・地域を語る

中川原むかし話

かるた口説き

No.6

北 岡 肇

お稚児さんの矢

まつりの安坂明神

洲本市中川原町内には、厚浜の諏訪神社を除いて中川原、二ツ石、市原、三木田、安坂の五地区に、それぞれ大歳神社が鎮座しています。大歳神社(㊦)でくわしく紹介します(㊦)のことを地区では明神さんと言っています。

安坂の明神さんは、道先山道の中ほどから南へ約100メートルのところ道端に鳥居さんがあつてすぐわかります。

お祀りしています神様は農業の大歳神、天照大神、応神天皇と書かれています。

もとは弘長3年(1263)宇山の現在、愛宕神社から厄除祭礼の時、安坂村の人が余燼を持ち帰り創建したのが始まりと言われています。

境内には寛政5年(1793)3月建立の灯笼が立っています。

お稚児さんも出ている矢の神事は毎年正月18日に行われています。

この日には、前まえから地区の役員さんや当番8人の人達が出て、餅まきのお餅約1石(150キ)を蒸して餅をつき、造った小餅は公会堂の大広間にコンパネを敷き、その上にビニールを敷いて並べ、冷めてからビニールの袋に詰める。大変な作業です。また一方では、社殿の清掃や神事の的矢、弓づくりなど、地区の人達は正月6日の初明神と共に大祭りと言っています。

古文書によりますと、

「正月18日には男女児三歳に当るもの頭参拝をなす、又その歳に新嫁入りしたるものは、正装にて参拝をなすもので、当日的矢の式礼あり、社前、明神川橋より十数間隔たりし川しもに鬼図の的を立て、厄年に当る人々は袴を着けて弓矢の式をなし之を射る。この式に参列せしものは神輿渡御に奉仕するものなり(中川原村史より)」

ところが昭和の末頃か、地区の総会で正月18日の明神さんのお祭りを宮司さん(炬口八幡神社)のご了解をえて4月最初の日曜日に変更して行われています。

デイサービスセンター 桜ヶ丘



宮本佐尾子様(90歳)

「はやくこい、こいお正月」とデイサービスルームから歌声が聞こえてきます。

利用者の方々に歌が好きな方や、昔、音楽教師をされていた宮本さんが歌われます。

11月から、淡路ふくろうの郷の言語聴覚士の齋藤さんに、利用者さんのご希望に併せて音楽療法をお願いしました。

歌いながら、楽器を演奏したり、又、聞こえない方、聞こえにくい方には歌詞カードを用いたり工夫しながら通所様一人ひとりが楽しく過ごせるようにしています。

宮本さんは、いつも笑顔で、あまり自分からお話しをされる事はありません。そんな宮本さんでしたが目の前の歌詞カードを見

ると自然に口元が動き、歌い出されます。それにつられて、周りに居た利用者の方達も一緒にハーモニを奏でられていました。

1曲歌い終わると、皆さん笑顔になり、拍手をして、「次は」と宮本さんが知っておられる歌詞カードを探しておられました。

宮本さんを包み込み、一緒に楽しく過ごす事も増えてきています。

(担当:鈴川)



▲利用者皆さんでかるたとりも楽しめました

デイサービスセンター 桜ヶ丘
お問い合わせ先
TEL:07999-281-09993
FAX:07999-281-09992
受付:平日 8時30分
17時30分(土日祝休み)
担当:竹内

いつもご支援ありがとうございます

先月のふくろう新聞で修繕箇所掲載をしましたところ、12月末まで**147,266円**のご支援をいただきました。ありがとうございます。

いつもミカン狩りでお世話になっている平岡農園さんからあま〜いミカンをいただきました。



作品紹介

12月9日 書道講座



「雪だるま」
梅原一江様(91歳)